

7月27日（木）に新潟地方気象台で開催された新潟地方気象台見学デーの概要を報告します。

「みて、ふれて、遊んで学べる国土交通省と気象台のお仕事」をキッチフレーズとした北陸地方整備局、新潟地方気象台、北陸信越運輸局の見学デーが開催され、日本気象予報士会新潟支部では新潟気象台見学デーに出展・参加いたしました。

日時：令和5年7月27日（木）9:00～15:50

場所：新潟美咲合同庁舎2号館9階・会議室

気象予報士会新潟支部からの参加者：7名

内容

1. 雪崩（なだれ）実験
2. 雲模型の製作
3. 体験コーナー（空気の重さ、雲づくり実験、ヘロンの噴水等）

今回は気象台、新潟県地球温暖化防止活動推進センターと気象予報士会の体験・実験コーナーを応募・抽選で選ばれた1グループ（親子約20名）当たり50分でまわるもので、午前、午後各3グループ合計6グループの参加者がありました。

毎年行っている『雪崩実験』は斜度約30度、長さ約2.5mのスロープを作り、その斜面に直径3mmの発泡スチロールの粒子を雪に見たて滑らせて、模型の家が倒壊、埋没の様子を目視で見させていただき、なだれの威力と怖さを体験していただきました。

『雲模型の製作』は印刷した台紙に両面テープを使い白い綿と灰色に染めた綿を貼り付けて雲10種を作るものです。今回は台紙を「十種類の雲と天気の一例」（低気圧の進行に伴う、雲の発生、天気の推移がわかる内容）に一新しました。実際に今日見えていた積雲等の雲の説明やホワイトボードに掲示した雲の写真を見てもらいながら作業を進めていきました。（延べ38人）

新潟地方気象台では地上気象観測装置の展示や大型ディスプレイに豪雨時の衛星画像等が映し、親子の質問に職員が対応していました。

また、屋外会場では新潟地方気象台による、竜巻・豪雨体験や北陸地方整備局、北陸信越運輸局による、照明車、除雪車、橋梁点検車、災害対策車等の展示やドローン飛行見学が行われていました。

当日の新潟市の天気は7月21日の梅雨明け以降、日差しの強い暑い日が続いて最高気温33.3℃の蒸し暑い日となりました。新潟支部としても来年度は参加者の皆さんがさらに興味を示すような新たな実験等を追加して行きたいと考えております。

日本気象予報士会 新潟支部副支部長 齋藤 義樹